

戦後京都の高校教育

白井照代さん（元府立向陽高校校長）に聞く

4月例会は4月12日、東山いきいき市民活動センターで開かれ、元府立高校校長の白井照代さんが戦後京都の高校教育の体験を若々しい声で語りました。白井先生の女学校生活、自由なそしてそこで培われたヒューマニズムが、戦後の先生の教師としての生き方を決定づけたことが窺えるお話でしたが、戦後の京都の高校三原則が、制度も含めてどう機能したのかについては今後の検証を俟たなければならぬことも明らかになりました。教育関係者の参加が少なかったことは残念でした（以下当日のお話の骨子）。

モンペ姿で修学旅行

白井さんは1923（大正12）年、京都市生まれ。35（昭和10）年、小学6年2学期、父の勤務で東京へ。新設の女学校に入学後、41（昭和16）年、東京女子高等師範学校（現在の御茶ノ水女子大学）に入学。44（昭和19）年に繰り上げ卒業。

同年10月、兵庫県立第三神戸高等女学校（現在の御影高校）に化学の教師として着任。3年生の担任で生徒の多くは寮生活、逆瀬川にあった学徒動員先の東洋ベアリングまでの引率も含め、午前7時から午後11時までの教師生活。45（昭和20）年8月敗戦、敗戦の日、売布神社に生徒を引率、生徒に土下座でのお詫びを強要した学年主任の行動は忘れるこ

とができない。閉鎖された工場の貸与を受け、4年生になった生徒を預かり、翌年3月の卒業まで面倒をみた。配給では生徒の空腹を満たすことができず、阪和線で和歌山まで買出し、芋を大量に買い込み生徒の食事（朝は芋粥、昼は芋弁当）をつくった記憶も残っている。

県の化学の教師として神戸での生活を続けたいと考えていたが、父親の教育委員会への働きかけもあり京都での採用が内定、自身の希望が聞き入れられ一年間の猶予期間を経て、城南高等女学校（現在の城南菱創高校）に47（昭和22）年8月に着任。5年生の副担任、数学を担当することとなった。モンペ姿の女生徒を連れて東京への修学旅行での鮮明な思い出が残っている。

洛北高校時代の思い出

50（昭和25）年、洛北高校に、75（昭和50）年からは新設の向陽高校へ、78（昭和53）年からの向陽高校校長職を経て82（昭和57）年退職までの35年間、京都での教師生活となった。新制高校としてのスタートが遅れた洛北高校では、生徒の半数以上は鴨沂高校の学区から、他にも朱雀高校等他の学区から通学する生徒も多かった。12程度のクラス編成（14クラスの年度もあったと記憶する）。このうち商業科が3クラス。学校の自由な雰囲気は校長だった青柳さんに依るところも多かったと思う。

商業科には他の高校が単独制になったこと等もあって、市内北部の広い地域から生徒が通学していた。普通科と商業科の間には対抗心や対立する意識があった。私が商業科の担任だった年、大事件が起こった。秋の修学旅行で、女子が多いことを



執筆 者 紹 介

白井照代（うすい・てるよ） 元府立向陽高校校長。左京区在住。
佐藤和夫（さとう・かずお） 本会世話人、前京都市議。伏見区在住。
殿平善彦（とのひら・よしひこ） 浄土真宗本願寺派一乗寺住職、空知民衆史講座代表、強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム共同代表。北海道深川市在住。
栃本吉之（とちもと・よしゆき） 京都市中小企業家同友会相談役・元代表理事。大産商事株式会社。下京区在住。
井上とし（いのうえ・とし） 女性史研究者。山科区在住。

からかわれて遺恨のあった男子生徒が、翌年2月のラグビー大会で暴力事件を起こしてしまったのだ。たまたま決勝戦で、からかった当の普通科クラスと対戦したためだった。この事件は新聞にも出る大騒動になった。

どうか解決したその年の4月、新学期で保護者も含めた挨拶の場で急に声が出なくなりました。夏休み明けにはどうにか回復したが原因は不明、一学期中バレー部の顧問も務めながらの勤務、病休も認められず苦労したこともある。

洛北高校の教師の半数は非組合員、梅ノ木会という会を組織、組合と対抗していたので、主任をどちらがとるか選挙はかなり激しいものだった。前身は府立一中なのだが、

資料 これが京都の発禁図書

(『京都出版史』にみる)

日本書籍出版協会京都支部が1991年に刊行した『京都出版史 明治元年一昭和二十年』には京都の出版社が発行した全書籍の目録を収録している。注目されるのは1万8886点に上る書籍とともに「発禁図書一覧」を掲載していること。これによると、明治22年の『色事指南・人造新法』に始まり、大正期前半までは「性」に関する書籍が多く、大正8年頃から大本教関係書が急増、マルクス主義など左翼書は大正10年になってから。

発禁図書一覧(性関係・右翼・宗教関係を除く)
 年号は発禁年、菊・四六は本の大きさ、あとの数字はページ数。

- 【大正】**
- 10年 ● 唯物史観研究 河上肇 菊 336 弘文堂書房
 - 賃労働と資本、労賃・価格及び利潤 マルクス著・河上肇訳 四六 183 弘文堂書房
 - 11年 ● 社会組織と社会革命 河上肇 菊 590 弘文堂書房
 - 13年 ● 特殊部落一千年史 水平運動の境界標 高橋貞樹 四六 340 更生閣
 - 労賃価格および利潤 マルクス著・河上肇訳 四六 152 弘文堂書房
 - 14年 ● 社会哲学原論 土田杏村 菊 580 内外出版
 - マルクスとエンゲルス 嘉治隆一・後藤信夫 四六 弘文堂書房
 - マルクス資本論略解第一巻第3分冊 河上肇 菊 205 弘文堂書房
 - 15年 ● マルクス経済学大綱 [社会思想叢書第1編] ボルハルト著・田中九一訳 四六 323 弘文堂書房
 - ボルシェヴィズム評論 岩城忠一 菊 弘文堂書房
 - レーニンの弁証法 [マルキシズム叢書第一冊] デボーリン著・河上肇訳 四六 116 弘文堂書房
 - 社会進化と婦人の地位 フリップ・ラッパポート著・山川菊枝訳 四六 更生閣吉田書店
 - 階級闘争の必然性とその必然的転化 [マルキシズム叢書第3冊] 河上肇 四六 84 弘文堂書房
- 【昭和】**
- 2年 ● 俗流経済学の批判 [マルキシズム叢書第13冊] マルクス著・菱美憲訳 四六 弘文堂書房
 - 経済学批判序説 [マルキシズム叢書第6冊] マルクス著・河上肇等訳 四六 73 弘文堂書房
 - 反デューリング論 [マルキシズム叢書第8冊] エンゲルス著 河野密・林要訳 四六 571 弘文堂書房
 - 労農ロシアの社会主義建設 社会主義への道 [政治批判叢書第4編] プーリン著 河上肇・大橋積訳 四六 187 弘文堂書房
 - 唯物弁証法 [マルキシズム叢書第10冊] 経済学批判会 四六 251 弘文堂書房
 - 改版レーニンの弁証法 デボーリン著・河上肇訳 四六 97 弘文堂書房
 - 3年 ● フィヒテに於ける弁証法 エデーソン著・小西文夫訳 四六 弘文堂書房
 - 国際問題 [マルキシズム叢書第17冊] エンゲルス著 岡村貞三郎訳 四六 弘文堂書房
 - 社会改造運動の心理的考察 パトリック著 山田敬徳・内館忠蔵訳 143 立命館出版部
 - 4年 ● 何をなす可きか レーニン著・木下半治訳 弘文堂書房
 - 社会民主主義諸政党 [マルキシズム叢書第20冊] ヴァルガ著・武藤丸楠訳 四六 245 弘文堂書房
 - 労働組合論 [マルキシズム叢書第19冊] 河上肇編纂・大川権三訳 四六 弘文堂書房
 - メーデーの話 谷村啓雄 四六 91 共生閣
 - 6年 ● レーニン主義の戦略戦術 A・ロゾプスキー著 本多麟太郎訳 四六 106 富貴堂出版部
 - G M ストライキ実戦記 ストライキと××的反対派の活動 198 産労関西支所編(富貴堂書房発売)
 - 資本主義の一般的危機と世界恐慌 プロレタリア科学研究所世界情勢研究会訳編 四六 198 京都共生閣
 - マルクス主義と刑法 ビオントコフスキー著 井藤善志雄訳 菊 275 京都共生閣
 - プロレタリア映画のために 日本プロレタリア映画同盟 四六 189 京都共生閣
 - 7年 ● 日本労働組合評議会史 第一分冊 磯村秀次 四六 260 京都共正閣
 - 水平社運動の批判・全国水平社解消論 全水解消闘争中央準備委員会編 四六 78 全国水平社解消闘争委員会事務所(京都共生閣発売)
 - 軍備全廃と赤軍 ソヴェート通信村上義夫訳 14 プロエス通信京都支局
 - マルクス主義哲学の方法論 ルードル・ハウス著 田元培訳 菊 195 政経書院
 - 8年 ● 第4回大谷派少年保護事業講習会講演集 真宗大谷派宗務所社会課 同
 - 9年 ● 満蒙講座3巻 菊 立命館出版部
 - 物質の哲学的概念 梯明秀 菊 505 政経書院
 - 市街戦 井戸利一 13 井戸利一
 - 京大作品 菊 88 京大作品社
 - 米国政治経済研究 田畑為彦 菊 405 立命館出版部
 - 10年 ● 我等の郷土桃山 京都市立桃山尋常高等小学校編 四六 27 同学校
 - 11年 ● 水平運動の推移とその闘争 上巻 河上融和運動研究所 菊 43 同研究所
 - 12年 ● 岩倉病院案内 岩倉病院 同
 - ふまぬ影 清野謙次 人文書院
 - 13年 ● 青年と神経衰弱 長浜繁 四六 217 人文書院
 - 14年 ● 闇をひらく・失明勇士の手記 平田宗行口述・天田喜代子記 168 人文書院
 - 15年 ● 世界最終戦論 石原莞爾述・東亜連盟協会関西事務所編 四六 88 立命館出版部
 - 16年 ● 西国巡礼案内記 清水谷善照 西国札所連合会
 - 女性史問題 小泉菊枝 四六 157 立命館出版部
 - 17年 ● ナツノトモ 初1 滋賀県教育会 241 立命館出版部
 - 戦火を追って 前芝確三 四六 484 教育図書
 - 国防戦争史 伊藤政之助 四六 240 立命館出版部
 - 18年 ● 国民学校国民科年代表 健民研究会

府立学校長の紅一点

白井さん 向陽高 勇退

授業に新風、惜しまれ



高早大市の紅一点学校長の白井さん(左)は、授業に新風を吹きこみ、生徒の心を捉えて、府立学校の発展に貢献した。その功績を称え、府立学校長に就任された。授業に新風を吹きこみ、生徒の心を捉えて、府立学校の発展に貢献した。その功績を称え、府立学校長に就任された。

京都新聞 1982年4月1日付

卒業生や地域からの干渉とも感じられることはなかったように記憶する。68(昭和43)年教務主任に。73(昭和48)年には普通科・商業科MI Xホームルームを取り入れ、授業も出来る限りホームルームでおこなえるよう努力してきたが、

75(昭和50)年、府南部に新設高校をつくることになり、府庁南に準備室が設けられ、後に初代校長と

学科別の教科書の選定等もあって、学科ごとの差を生徒自身が感じるこたないよう努力は続けたつもりだったが、現実にはなかなか難しい側面も多かった。

なる鈴木集蔵さんを含めて3名で準備にあたった。向陽高校の準備は大変だったが、鈴木校長の休講なしや制服そして二足制の採用等、当時の公立高校らしさの真逆をいく教育で注目を集めた。3年間で山城高校を追い越すとの教育目標が設定され、大学合格率も確保、新設校故な

(文責は語る会事務局・井手)

私の一期一会

⑨

紙芝居「祇園祭」を作り上演した

手塚晃さんに聞く

インタビュアー
佐藤和夫
(本会世話人)

1952年4月ごろ、サンフランシスコ講和条約が発効し占領下から法的に独立する時、民主主義科学者協会(民科)京都支部歴史部会に所属する京大生たちが、平和への思いを込めた紙芝居「祇園祭」をつくり、上演運動をしました。2008年7月に日本史研究会と京都民科歴史部会の共催で「紙芝居「祇園祭」の再発見」(田中聡・立命大)の講演が行われましたが、東京大学での歴史学研究会創立20周年大会で上演した紙芝居一座11人のうち、ただ一人苗字のみ表記されていた謎の手塚さんに、たまたまお話を聞く機会がありました。

紙芝居「祇園祭」外伝の始まり、始まり。

林屋辰三郎氏の論文をもとに

——そもそも、民科京都歴史部会の学生たちがつくった紙芝居「祇園祭」も、西口克己氏の小説「祇園祭」も、林屋辰三郎立命館大学教授の「町衆の成立」(岩波書店「思想」312号)も

1950.6)の論文をもとにしています。ハイライトの応仁の乱後の天文2年の「神事なくとも、山鉾渡したし」の史実解釈も、今日では異なる学説が有力ですが——

西口さんは、小説「祇園祭」(中央公論社版、1961年春)の著者あとがきで、「友人の歴史学者林屋辰三郎君からいろいろとおそわり、自分でも資料をしらべて、この小説を書きました」としている。

その後、1966年1月の弘文堂版の再刊にあたり、「まえがき」に(付記)をつけ、「この作品を書いた当時、友人の林屋辰三郎教授の助言や、同教授の名による小冊子『祇園祭』

が、私の発想にヒントを与えてくれたことを明記」しました。その小冊子「祇園祭」は、東京大学出版会から1953年7月10日に発行されましたが、小冊子「祇園祭」所収の紙芝居には言及していません。小説「祇園祭」を原作とする萬屋錦之介の映画「祇園祭」が、ある年代の世代層では「祇園祭のイメージ」を規定しています。

——西洋史専攻の異色の二人のアキラで、紙芝居「祇園祭」で果たした先生の主な役割はどのようなものですか。

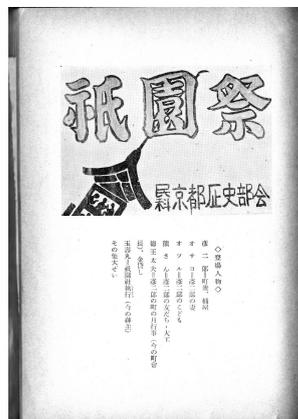
手塚 シナリオを紙芝居の絵にする指図とか、シナリオが観客に受け入れられるかどうかとか、どう演じればいいのか、ということだね。要するに、演出かな。

当時、僕は「京大人形劇団」を主宰していて、わりややすく、おもしろく、ためになるに苦労していたからね。嵐電太秦駅の近くに住んでおられた80歳ぐらいの陶芸家・松本彦四郎さんに人形づくりを習っていました。セツルメント運動のひとつとして人形芝居をやる中でお芝居のイロハを身につけた。京大の西部講堂でオスカー・ワイルドの「サロメ」も上演したもんだ。

1952年、平和への思い込め



民科歴史部会の京大生らの活動



「祇園祭」脚本

そういえば、京大西部講堂には小

学校教員で山科の古館三徳さんが生徒達の学芸会上演の参考にするためよく見に来てくれました。後に山科選出の京都市会議員になられた方です。関谷美奈子さんたちの「京都子どもを守る会」設立準備委員会には、京大人形劇団手塚晃としてもかかわりました。

——しかし、「サロメ」は小学生向きじゃなくて、ちょっとエログロというか、暗いですね。その線からは、先生の社会運動につながる関心がわかりませんよ。

手塚 小学校での公演では、やっぱり童話の人形劇。3歳上の兄の手塚元（はじめ）が、旧制三高・京都帝国大学文学部哲学科に進み、学生運動をしていたことも影響したね。いわゆる「50年問題」当時、兄は山村工作隊の活動で北桑とか亀岡などで活動していたようでしたが、実家とは音信不通のありさま。そ

の後、兄は共産党を離れましたが、1964年頃から総評京都地評常任幹事・全金京滋地本書記長などやってましたね。その兄も組合専従の49歳で亡くなり、総評推薦で解放戦士の墓に合葬されています。僕の学生時代は、いわゆる党の分裂もあり、僕自身は兄をみていて党には入りませんでした。

——「敗戦革命」論という学説もありましたが、アメリカの初期占領政策の日本軍国主義解体と民主化政策が、1948年1月6日のロイヤル米陸軍長官の「日本を反共の防壁にする」との演説があり、戦後改革の転換・東西冷戦が始まります。また、この年の7月17日に京都の祇園祭が復活します。丁度この頃、1948年9月18日に「全学連」も結成されます。その翌年1949年学制改革で新制大学1期生として、手塚先生は京大文学部に入学されます。こうした時代背景が先生の社会観の転換の要因となったと思います。

手塚 1951年頃、日本の独立回復をめぐって、「全面講和か、単独講和か」が社会問題となり、レッドパージがあり、時代の「逆コース」との指摘もあったしね。1951年に京大天皇事件もありましたし、52

年には、祇園石段下で武装警官とテモ隊が衝突するメーデー事件が発生し、兄も逮捕されました。僕は1953年4月に京都大学大学院にすすみ、西洋史を専攻しました。「フランスの1848年2月革命」が専門だった。

国民に役立つ歴史学をと気負い

——血沸き肉躍る、プロレタリアートの「第二共和制革命」から、ルイ・ボナパルトのクーデターと帝政への転換ですか。なんか、戦後日本の「希望と失望」を歴史的に類推させますね。

手塚 紙芝居「祇園祭」の作成にいたる動機について、単独講和反対運動や破防法反対運動を通じて「歴史学を国民に役立たせよう」と気負ったんだな。林屋辰三郎先生がこの「祇園祭について」の中で、フランス人のパリ祭に対する燃え上がるよう興奮が、映画「巴里祭」で描かれていると指摘し、それに匹敵するのは日本では中世の「祇園祭」ではないか、歴史の変革を成し遂げた民衆の歓喜を持っているという言葉に感動しました。それに1848年革命を専攻したのも、革命期は党派のよってたつ階級階層の利害や動きがわかりやすく鮮明になるからね。

絵になる。

——絵と言えば、中井宗太郎先生（京都市立美術学校長・立命館文学部教授など歴任、美術史）が、キーマンのひとりではないでしょうか。1952年4月に西山卯三さんと中井さんの斡旋で、「市立美大」と「京大美術部」の協力をえて、漫画研究会の大藤亨さんの紙芝居絵を作成させています。しかも、1953年1月21日には、林屋さんと中井さんも参加して3種類あった脚本の決定稿を決めています。

中井先生は1952年に「日本史研究」誌に「抵抗の芸術」を発表されています。とくに「大津絵」は純粋な民族的庶民芸術として賞賛していますが、見ようによっては漫画チックでもありますよね。当時はサンフランシスコ条約と旧日米安保条約の締結をめくり、「民族問題が提起され、民族文化論が盛んに行われていた頃」（脇田修『桃花流水・中井宗太郎追悼集』1966年7月刊）です。その中井先生は伏見区桃山丹波橋に居住され、小説「祇園祭」執筆当時は市会議員だった西口克己氏とも親交がありました。

大島渚らのグループと親交

手塚 京大の2学年下で大島渚さんがいました。松竹映画のヌーヴェル・ヴァーグの旗手といわれた。映画の大島一家の戸浦六宏さんも京大

の演劇などの文化運動がらみで親交してました。大島映画常連の俳優佐藤慶さんが京都に来ると呼び出されて、一緒に飲んだね。

—— どんなどころへ？

手塚 西山卯三先生行き付けの祇園のバー「蘭」あたりなんかだったかな。とくに、60年代の初めのころ、京都人形座には大分肩入れしました。

鴨沂高校の演劇コンクールの審査委員をしたり、映画鑑賞でチャップリンの映画の解説を全校放送したりしてね。当時、府教委の教育主事だった方が、来校中に校内放送を聞いて「手塚はやるな」と感想を述べられていたとか。中学の恩師だったんですよ、その先生は。たぶん、チャップリンがマッカーシズムの「赤狩り」にさらされたことなどをしゃべったあたりの感想だと思っけ。

—— 話は少し戻りますが、紙芝居「祇園祭」の「文工隊のどさまわり」というか、「国民的歴史学運動」公開ゼミの地方巡業というか、歴研創立20周年記念大会での東京大学公演から京都の失対労働者の七条職安までいろいろなところに行っています。また、関西映画幻燈協会作成の「スライド版」の上映では、1954年8月31日に大阪大手前高校夜間部で上映しています。とくに印象にのこっていることはありますか。

手塚 東大での公演では、京大の日本史研究会の女子学生に特別声優

として出演してもらったね。たしか、宮下美智子さんだったかな。大阪大手前高校定時制でのスライド上映では、僕が院に在籍しながら西洋史を教えに行っていた関係で、生徒の前でやりました。また、日本史には一緒に紙芝居をやった脇田修君が大手前の講師できていたしね。

実は、この当時の定時制の教え子がパリで版画家をしていて、僕が55歳の定年で教職をやめた時、1か月ほどパリに滞在する宿泊先を確保してもらいました。フランス革命200周年の年、どうしても7月14日のパリ祭をこの目で見たかった。あこがれのフランス革命を建国記念日とする民衆の歓喜にふれたかった。大衆運動は世の中を変える。「人民主権」だね、元気をもらえたよ。このあいだ、大相撲京都場所所で鶴竜関のガチンコ勝負で元気もらったよ。

①参考資料…田中聡立命館大非常勤講師（2008年当時）による日本史研究会・京都民科歴史部会共催の市民講演会での「紙芝居『祇園祭』の再発見」

②聞き取り立ち合い協力…手塚良子さん（京都子どもを守る連絡会会長・元小学校教諭）

*次回（7月）は坂口芳治・元京都市会議員へのインタビュー。

遺骨——語りかける命の痕跡

殿平善彦 著

BOOK

本号に「龍大学生運動始末記」を寄稿した殿平氏の近著。戦時中、北海道の鉄道やダム工事、過酷な労働の末に亡くなり人知れず葬られた人々がいた。これらタコ部屋労働者、中国・韓国・朝鮮からの強制労働犠牲者の遺骨を掘り起こし、遺族へかえす取り組みを1980年に開始した。

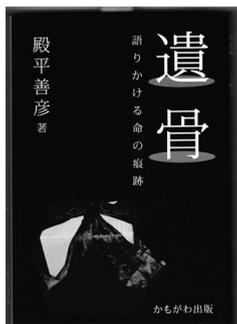
著者は深川市の一乗寺住職、1970年代から始まる民衆史運動は強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラムと、日韓共同ワークシヨツ

世代・国境・民族を越えた掘り起こし

ブ、のちに東アジア共同ワークシヨツに発展してきた。いまなお膨大な遺骨が故郷に帰ることなく残されたままである。遺骨を掘り起こし、祀り、遺族に届けること。それは名もない人々の生きた証を今に伝えること……。世代を超え、国境を越え、民族を超えた地道な取り組み。被害と加害の双方が、死者の声を聴くことから和解への歩みが始まるのではないだろうか、と記す。

1997年以来的の活動を記録した映画「笹の墓標」（影山あさ子・藤本幸久監督、森の映画社：9時間7分）も完成、上映運動が始まり、また最近NHKテレビでも放映され注目された。

（かもがわ出版・280頁・本体2200円）



好評発売中！

『療原』の合本「電子ブック版」

●第1巻（創刊号から第50号）
●第2巻（第51号〜第100号）
●第3巻（第101号〜第150号）
●第4巻（第151号〜第200号）

*ご希望の方は、事務局まで電話またはFAXでお申し込みください。

CD-ROM版
各巻頒価 3000円
(送料共)

京都の民主運動史を語る会
TEL&FAX 075-722-3823
(井手方)

1960年代 龍大学生運動始末記

殿平 善彦（北海道深川市）



米軍キャンプ使用した学舎

私が北海道から京都に出たのは半世紀前の1964年4月、当時の龍谷大学は払い下げられた米軍キャンプをそのまま使ったキャンパスだった。4年前に経済学部を新設した深草学舎は、兵舎をそのまま利用した校舎ばかりで、弾薬庫跡があり、フェンスは金網のままだった。

校門を出た正面の深草西浦町は薄原で、その向こうに昨年できたばかりの日本で初めての高速道路、名神高速道路が見渡せた。

年末に京都駅前に巨大な蠟燭のように見える京都タワーが出現した。住井すゑさんは、金儲けの欲望を象徴する男根のようだと言った。

翌年には、オリンピックの開催に間に合わせようと急ピッチで進められていた新幹線工事が完了して、友人が抽選で当たったと京都から米原まで乗って私を羨ましがらせた。

大阪あたりの空気はすでに灰色に淀んで人々の健康を蝕んでいた。本格的な高度経済成長が始まり、田舎から出てきた私には、はち切れそう

な期待と不安が交錯する学生生活の始まりだった。

社研ボックスが運動の巢

入学した龍谷大学に学生運動はなにもない状態だった。わずかに社会科学研究会のボックスが運動を志す学生の巢になっていた。夏の終わりに誘われて社研のメンバーになった。「ドイト・イデオロギー」や毛沢東の「実践論・矛盾論」をテキストに議論は盛んだったが、運動がボックスから出ることはなかった。

年末近く、アメリカの原子力潜水艦シードラゴン号が佐世保港に入港するニュースが届いた。喫茶店でコーヒを飲みながら、しゃべってばかりいる社研のメンバーの中から佐世保に抗議の代表を送ろうということになった。へー、そんなことができるのかと感心した。キャンパスに立って、原潜入港反対の署名と代表派遣のカンパを訴えると、募金が寄せられた。ルバシカ姿の先輩が代表で佐世保に出かけた。これが1960年代龍谷大学学生運動の始まりの合図だった。

部落研を作り竹田隣保館へ

浄土真宗と未解放部落の関係は古くて深い。部落内の仏教寺院の大半は浄土真宗であり、その大半が西本願寺派だ。近世初頭にはそんな関係が成立したようだ。本願寺は明治期には融和運動を進め、西光万吉は真宗僧侶であり、水平社宣言にも親鸞の思想が盛り込まれた。

1964年度末、どういうわけか、龍谷大学では社会事業研究会にあった同和班が解散になった。学内に部落問題を考える研究会がなくなる。それなら、俺たちで立ち上げようと準備が始まった。1年先輩のSさんと私と同年年のMさんが参加した。Mは、水平社初代委員長南梅吉の孫だった。

1965年4月、キャンパスに机を出して新入生の勧誘を行ったが、出たての部落問題研究会に次々と入会申し込みがあった。赤色に荊冠をあしらった部旗が誇らしげにはためいた。部落研のメンバーは近くの竹田部落の隣保館に通って、子供会の子どもたちと遊んだ。この時に「竹田

の子守唄」を覚えた。

解放同盟で活躍する部落の青年たちが作る「合唱団はだし」を指揮する多泉和人さんがおばあちゃんから採譜した曲をもとに作曲した歌である。

橋本製作所労働者のど根性

2 回生、65年秋のころだろうか。私は竹田街道の高速道路下の下宿を出される羽目になった。同じころ、別の下宿を追い出された友人と二人で、行き先を探したが見つからない。探しあぐねた二人が向かったのは、竹田街道沿いにある赤旗が塀の周りにはためく、争議団の建物だった。「橋本製作所争議団」は偽装閉鎖を仕掛けた松下の下請け会社に対して、若い労働者が会社の建物を占拠して労働争議をたたかっている。

私はこの労働者と友人関係にあった。行くところがないから泊めてくれという私たちを彼らは快く招き入れた。よくも貧乏学生に争議団の占拠する会社の部屋を貸したものだ。最初は入口の宿直室に泊まった。水道は通っているのに、水洗便所だったが、電気は止められていた。夜の灯りは石油ランプ、炊飯は七輪でやった。さすがに1か月でたまらなくなって、寮に入れてくれるよう交渉した。それから1年近く、寮の一室をもらって、友人と共同生活を送った。私は争議団の建物から学校に通っ

争議団占拠中の建物に下宿

自治会の暴力支配と闘い勝利

た。彼らは裁判闘争を続けながら、生活は行商とカンパだった。インスタントラーメンやお菓子類、生活用品を仕入れて労働組合回りをして売って歩く。夏季や年末にはカンパ箱を持って会社の門前に立って募金を訴える。私も一緒に募金箱を持って立った。

ある時、警察が会社の中を覗いたことがあった。それを見つけた労働者たちは一気に走って出て、警察官を捕まえた。「お前ら、偽装閉鎖の夜に、会社が機械をもちだそうとして、暴力団を雇い、俺たちを殴ったのを、黙って見ていたじゃないか。俺たちを覗きにくるとはけしからん。今度来たらただじゃおかないぞ、分かっただか」と路上で警察官を脅かす。私も一緒に走って出たが、足はがたがたと震えた。警察官は謝ってすぐすぐと帰って行った。橋本の労働者のど根性を見た思いだった。

橋本のたたかいは1971年まで続き、蜷川府政の伸介で和解を勝ち取り、勝利した。彼らの闘争の日々は苦労も多かっただろうが、困難を抱えながらも、みんな夢見る若者たちだった。彼らのたたかいの日々に出合っ、人生の最も大切なことを学ばせてもらった。不正義に怒りを込めて立ち向かい、希望を失わずに歩んでゆく彼ら、彼女らはカッコいい労働者たちだった。

当時の龍谷大学は学友会（学生自治会）の執行部を空手部など、体育会系のサークルが握っていた。民青同盟など、学園の民主化をスローガンに闘う学生たちには手が届かない。こちらはまだ圧倒的少数だ。

1966年春、京都新聞に記事が載った。「龍谷大学でまた暴力事件」という見出しだ。空手部が強引に新生を勧誘して、退部を申し出たら、校舎の裏に引っ張って行って殴ったというのだ。

殴られた本人は憤懣やるかたなく、下宿のおばちゃんに訴えたら、おばちゃんが京都新聞に電話して、取材があり、記事になった。ところが空手部は本人を捕まえて、暴力事件はなかったことにしよう強要した。そのさ中に私が本人と出会った。

私は本人に、正義のためだ、空手部を告発しようと言った。彼はなかなか決心がつかなかった。彼は創価学会青年部のメンバーだった。私に「あなたが創価学会の私の上司に出会って、説得して、上司がいいと言ったら、あなた達と一緒に闘ってもいい」言う。それならと、彼が案内する上司に会うことになった。彼の女性は深草稲荷に住んでいた。彼

女の家に行き、正義のためには殴られた本人が立ち上がるのが一番だ、私たちも一緒に闘うと言った。彼女は「正義のために闘うのが創価学会だ。がんばりなさい」と本人を励ました。

一方空手部は暴力事件がなかったと言わせるつもりが、本人がいなくなったので、あわてて必死に探している。もし見つかったら、相手は空手部だ。どんな目に合うかもわからない。彼の下宿先はすでに手が回っていた。どこに逃がそうか。一番安全なのは、当時私が住んでいた橋本争議団の建物だということになった。赤旗が立つ建物に入ってくる度胸のあるやつはいないだろう。橋本製作所の一室に泊まり込んだ彼に、原稿用紙を渡し、彼が受けた暴力と、隠ぺいを強要された事実を書かせた。最後に署名して、ハンコを押した。

そのさ中に、とんでもない事実が浮かび上がった。昨年、空手部の連中が、大阪から通ってくる女子学生を輪姦したというのだ。女子学生は泣き泣き退学したという。こうなったらそれも一緒に暴露しようとなった。

虚偽報道だと京都新聞に抗議した学友会は中央委員会を開催し、そこで暴力事件のあるなしを決着させようとしていた。空手部は必死に本人

を探したが見つからない。

中央委員会が開催された当日、会場には傍聴人も含めて学生で溢れていた。記事を書いた記者も参席している。ぎりぎりまで隠れていた私たちは本人を連れてタクシード会場に乗り付けた。本人はすっかり震えて、まともに歩けない。私も震えたが、そんなそぶりは見せられない。「心配するな、落ち着いて、発言の時まで待つていればいい」といった。

学友会の抗議に記者が抗弁する。ついに本人に真相を聞こうということになって、順番が来た。本人は立って、原稿用紙を持ったが、最初ちよつと読んだだけで言葉が出てこない。私が「私が代わりに読みます」と言って、原稿用紙を読み上げた。ことの真相を暴露された執行部は真っ赤な顔になった。私の読み上げが終わったとき、わが方の中央委員が手を挙げた。「私も言いたいことがあります」と、昨年の輪姦事件を暴露した。今度は執行部の顔が真っ青になった。発言した我が方の中央委員はそのあと緊張のあまり、入院を余儀なくされた。

話は暴力事件どころではなくなつた。教授会が動き、空手部は解散。社研のメンバーは脅されながら校内でピラマキを続けた。翌年の選挙で、民青同盟を主流とするグループが学友会の執行部を掌握した。

「わだつみ像」除幕式の頃

栃本吉之（立命館大学末広会）

1953年4月7日、立命館大学の入学式に出席しました。4月5日に結婚し、忙しい中で京都入りでしたが、旧制中学を卒業して既に4年の歳月を経過していました。（中略）

大学で出会った仲間は、数年遅れて入学してきた人がたくさんいました。皆、開戦と敗戦を経験し、どん底の生活を経験した人たちの集団でした。

予科練の生き残りや、少年兵として入隊し、敵の弾をくぐり抜けながら敗戦に救われて命をつないできた人達を交えて、「生きる」として「生きた方」を模索しようとして入学してきた人ばかりでした。

「禁衛立命」から「民主立命」への方向転換が進められた時期と重なっていました。末川博先生は、学長、総長となつてその先頭に立ち、生きる方向を示されました。

市中パレードで市民に披露

「不戦のつどい」は私の原点

「諸君の生命は若い。若いがゆえに尊い。諸君はその尊い生命を守り、生きて生きて生き延びて、人類の幸福と世界の平和に寄与しなければならぬ。」その言葉を肉声で聞いた仲間は、今もその言葉を生きたことの基本に据え、苦しい時も方向をまさぐる時も、全てこの言葉を基本にしています。

その少し前、「『きけ わだつみのこえ』」を読みました。私より僅か三、四歳年長の先輩に「学徒出陣」が命ぜられました。

「学ぶより戦え、戦つて死んでこい」と命ぜられたのです。大勢の先輩が陸に海にと散つてゆきました。その無念の書き残しが「わだつみのこえ」です。そこに記された言葉に感動し、日本戦没学生記念会（わだつみ会）に入会しました。「わだつみ像」は東大の安田講堂前に建てられる予定でしたが、時の東大理事会が拒否し、「像」は立命の庭に建てられることになりました。

東大の学生自治会と話し合うことにな

り、立命から三人が東大に赴きました。二人の先輩と共に私も参加しました。東大の自治会には、堤清二さんがまだ大学院に残つておられ、自治会を統括しておられた頃のことです。「どうか京都の地において、わだつみ像をしっかりと守つてくれ」ということが繰り返し述べられました。

1953年11月8日、「わだつみ像」が京都に届き、11日、わだつみ像をオーブンカーに乗せ、末川博総長、浅井清信学生部長、それ



に私が同乗しました

た。マイクを持つて案内するのが私の役割でした。京都市中をパレードしました。私は辻辻で集まった大勢の市民にわだつみ像が京都に到着したことを告げ、「きけ わだつみのこえ」の一節を読み上げ、「私達はペンを銃に持ち替えることは致しません」との思いを告げました。（写真）

53年12月8日、わだつみ像の除幕式が行われました。その後、「毎年12月8日に『不戦のつどい』を開催しよう」ということが決まり、翌1954年12月

8日に、わだつみ像の前で第一回「不戦のつどい」を開催しました。

60周年に「記念誌」発行

大学・教職組・後輩たちが一丸となつて毎年「不戦のつどい」を開催して昨年が第60回になり、あの頃の仲間と記念誌を発行しました。次々と集まつて来るみんなの原稿を読んで私は泣きました。全ての人がああ慌しく生きて1953年を起点にし、そこに重点を置いて生きて来た軌跡に感動しました。

今、1953年の出来事を思い出し、この年が私の出発点だったのだと思ひ始めております。仲間が次々と他界し、数が少なくなつていきます。東大で話し合った堤清二さんも11月鬼籍に入られました。

慌しく生きて1953年を回想し、そこに私の生きる起点があったことを確認しています。（京都中小企業家同友会相談役・元代表理事）

*本稿は同人誌「飛翔」第100号特別記念号に掲載されたものです。

*記念誌『第60回「不戦のつどい」に寄せて』は立命館大学末広会（田代辰盛会長）が昨年12月6日に発行、「不戦のつどい」当日に会場で希望する学生たちに持ち帰ってもらいました。会の最後に僅かな時間をもらつて訴えたのですが、涙ながらにこの誌を持ち帰ってくれる学生もいて、感動的な場面もありました。（栃本）



京都勤労婦人連盟

②

井上とし（女性史研究者）

5 活動

前稿（210号）に引き続き、京都勤労婦人連盟（45年12月23日結成 勤婦と略す）の独自活動を年次順に追い、次号に共同・統一運動について記すが、これらは一体のものとして進行している。

【1946年】

「会報 第一輯」（1946.3.21）のみ現有している。継続的に発行されたか不明。

会長渡辺つるえの「創刊に寄す」には「私どもの連盟も終戦と同時にイニシヤチーフをとるであろう。あらゆる勤労層の婦人層の力を結集しようという目的から誕生し、約三ヶ月たらずの日を経過してきたが、その間勤労婦人のたくましい意欲を育てるための土を作る仕事を黙々とし、やってきたのである。……そして今後もそうした勤労者の生活をたかめ豊かにする生活文化運動を、一貫してやってゆこうと思っている。そのうした高い勤労生活の中からこそ日本の政治を経済を、生活を指導してゆくことのできるすぐれた指導者が

必ず育つであろう……」とあり、勤労婦人の生活文化運動というイメージを抱いていたようである。

「連盟の動き」としては、1月―設立委員参集、本年度活動方針、講座内容を検討。・新村猛より「人類の進歩と平和」と題する話を聞き、討論。・全体会議、若い元気な入会者を得て、体制強化。2月―進駐軍の炊事場見学。・「ひなまつり」準備。奥むめお入浴、幹部で懇談。3月―ひなまつり会、無鄰庵。進駐軍50名。一般入場者500人。「長い間のござされた生活から解放され、みな心ゆくばかり楽しみました。進駐軍から強制されることのない、自由で水準の高い、日本では初めて経験したミーティングだと大変好評でありました」。・「投票を前にして婦人に正しいよい政治への関心をたかめるために『婦人解放大会』を計画し」各職場訪問、代表者選出を依頼、顔合わせをする。・しおから、するめ、抹茶の配給を事業部で行う。・府衛生課より有馬属官が来て、進駐軍をめぐる女性の性病、妊娠の問題の詳細調査を紹介、日本婦人の問題として取り上げてほしいと依頼された。

「当面の計画」には、3月31日「婦人解放大会」。・4月上旬、百万遍交差点より高野方面へ約1丁東側の第一クラブ、農大（京大農学部）北門前の第二クラブを集い、談話室、休み場所、栄養補給の食べ会などに開設。一般利用可。・4月下旬より週2〜3回「生活文化学校」を開講。内容は栄養調理学と実習、服飾、人形製作、文化史、社会史、その他特殊講座。これは移動学校として職場、農村どこでも出張する。・事業部で廉売部結成。

近藤とし子著『根のいとなみ』によれば、第二クラブはテーブルを三つほどおいた学生のたまり場で、配給の食糧をパンや握り飯に調理したり、コンサートを開いたり、京都を学生の住みやすいところにしたというのも「連盟のオバサンたちの熱い願いであった」。さらに同年7月、第三クラブを三条柳馬場ツバメヤ写真館2階に開設し、「私たちの木曜講座」では音楽・政治・文学・映画・食生活などの教養講座を毎回2円で開講。

またこれらのクラブに限らず、風呂屋の脱衣場などの安い会場を探して「民主主義とは何か」といった啓蒙講座を随時設け、つねに歌唱指導、ダンスパーティーも交えて満員の盛況であった。勤婦のなかにはデパート店員、英語教師、画家、音楽家、デザイナーと各職業人がいるので講師

には事欠かなかった。西垣昭子は「ボスターを貼るだけで、人々が集まってくる雰囲気があった」という。なかでも特筆するべきは3月31日「婦人解放大会」であろう。

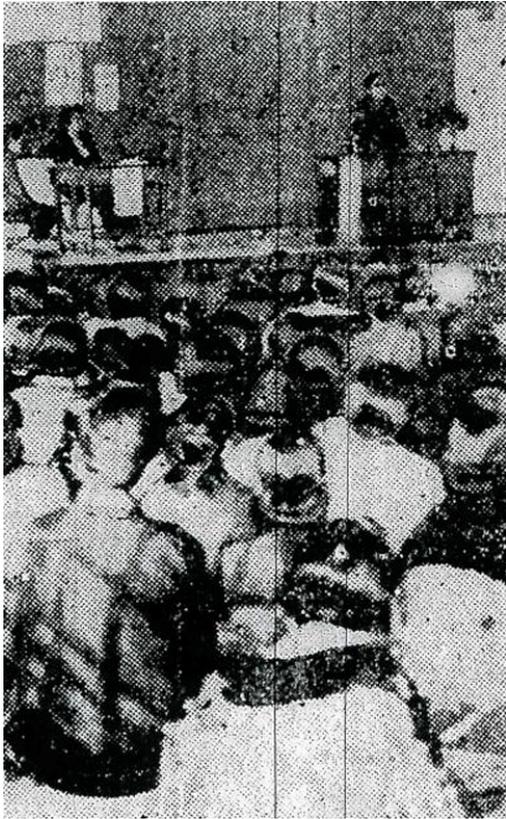
1945年12月17日衆議院議員選挙法改正公布。婦人参政権が実現した。長い悲願とはいえ、大多数の女性にとっては突然の権利行使であった。GHQをはじめ各行政機関、言論界も啓蒙にのりだす。46年2月3日GHQ民間情報教育局（CIE）は覚書「女性を投票させるための情報プラン」を出した。「女性が広範にわたり聡明な選挙権行使をすること」「選挙を民主的な婦人運動を促進させる手段として利用すること」などを目標とし、各分野での推進が指示され、「婦人団体は投票の重要性や投票の手続について話し合う会合を開催すること。……また、婦人団体は立候補者が政策を述べ、女性の質問に答えるような会合を持つよう奨励されること」とある。2月15日、CIE女性問題担当官ウイードは婦人参政権についての懇談のため入浴している。勤婦と京都の米軍政部との関係については後述するが、このような指示は、府労政課の桐谷東里を通して伝えられたであろう。

しかしそれだけではなく、社会には急速に男女同権の気潮が高まり、同年3月6日に現憲法草案が発表されている。さらに京都民主戦線の大

きい政治運動のうねりのなかで女子民主戦線（連盟）結成への動向があったことも相乗していたと考えられる（6、②）。勤婦会員たちは、4月10日戦後初の総選挙での歴史的な平等権行使の前に、大会を盛り上げるための熱い討議を重ね、高揚した気持ちで準備したのであろう。

京都新聞46年4月1日付は「真の婦人解放を叫ぶ」という見出し、写真（左）付きで記事掲載。

「政治的には解放されて自由なる地位を獲得した我が国の婦人大衆も未だ経済的の面において、法律の面において、封建的な社会的因習の面において少しも解放されてはいない。この婦人達に真の自由を得させるため……開催した。新



婦人解放大会（1946年4月1日付京都新聞）

しい時代意識に覚めた若い女性をはじめ切髪の老婆、年配の紳士なども交えて約六百人の聴衆が講堂いっぱい詰めて、次々に登壇する弁士の火の様な叫びに聴きいった」

この大会準備のための横地章子ももあり、参照しつつ内容を記す。

〔婦人解放大会〕

1946年3月31日 午後1時～4時 春日小学校（河原町丸太町角）600人

司会 近藤とし子

〔1部〕 職域・婦人団体代表

祝辞 大阪勤労婦人連盟

挨拶 勤労婦人連盟・渡辺つるえ／新日本婦人同盟・斉藤さえ／女性

文化連盟・木村ちよ／女性研究会・土屋光子／文化団体協議会・栗原佑／人民解放連盟・佐藤譲／労働組合総同盟・井家上専／民主戦線協議会・大田典礼／近代日本研究会・横地章子

職域代表―第二赤十字病院・佐野政枝／国民学校・野洲／島津三条工場・春野美代子／大和証券・岡村良子／簡易保険局・多賀泰子／京都市電気局（市電）・片木登喜子／三菱重工京都機器・藤田芳子／（電話局・同志社女専）／戦災者・児島とみ／家庭婦人・岡田真喜／未復員家族・橋高喜代子／とびり・中井アイ

緊急動議 女子民主戦線協議会結成

〔2部〕 各政党の政見発表

政党婦人部―進歩党・溝口欣子／女子自由党・松崎八重／社会党婦人部・広本文枝／共産党婦人部・小松勝子

政見発表―進歩党・金田弥栄蔵／自由党・芦田均／社会党・辻井民之助／共産党・安田徳太郎／無所属・大石ヨシエ

右の横地発言の下書き（二百字詰原稿用紙12枚）があり、「私たちはもう古い勢力を動かし倒す力、その鍵をもっているのです。あらゆる働く人達、苦しんでいる人達が結集して大きな力となり、一つの方向に進めばよいのです。……共産党の野坂氏

によってとなえられている民主戦線の動きこそ、それだと思えます」と明確に共産党の支持を表明している。

集会は盛況で強いインパクトを与え、後々民主運動に関わった女性の多くが記憶していた。1933年頃治安維持法違反で大阪の未決監に収監されていた大道俊、横地章子が会し、同様に児島とみらの弾圧体験者の参集も多かった。まずはこれら女性の願ひであった自由と平等の実感を喜び合い、再び決意を新たにしたことであろう。4月10日の投票率は全府下68%、女子63・9%である。

こうした政治啓発活動はほかにも多様な形で行われたであろうが、その一つとして「民主婦人大会」が横地報告に記載されていた。

〔民主婦人大会〕

1946年10月13日 春日小学校200人

参集者―主として職場関係、組合婦人部の幹部及びその周囲の数名が一団をなして参会したものが多かった。総数約二百、一時より五時まで熱心に聞いていた。……主な参集は市電、島津などのKKR系の各工場、関電、日本織物、通信関係。講演―社会党婦人部長赤松常子女史―同一労働に同一賃金の獲得について。当面の闘争に結びつけられていないため、力弱かった。共産党婦人部長大町米子女史―保償

によってとなえられている民主戦線の動きこそ、それだと思えます」と明確に共産党の支持を表明している。

集会は盛況で強いインパクトを与え、後々民主運動に関わった女性の多くが記憶していた。1933年頃治安維持法違反で大阪の未決監に収監されていた大道俊、横地章子が会し、同様に児島とみらの弾圧体験者の参集も多かった。まずはこれら女性の願ひであった自由と平等の実感を喜び合い、再び決意を新たにしたことであろう。4月10日の投票率は全府下68%、女子63・9%である。

こうした政治啓発活動はほかにも多様な形で行われたであろうが、その一つとして「民主婦人大会」が横地報告に記載されていた。

〔民主婦人大会〕

1946年10月13日 春日小学校200人

参集者―主として職場関係、組合婦人部の幹部及びその周囲の数名が一団をなして参会したものが多かった。総数約二百、一時より五時まで熱心に聞いていた。……主な参集は市電、島津などのKKR系の各工場、関電、日本織物、通信関係。講演―社会党婦人部長赤松常子女史―同一労働に同一賃金の獲得について。当面の闘争に結びつけられていないため、力弱かった。共産党婦人部長大町米子女史―保償

によってとなえられている民主戦線の動きこそ、それだと思えます」と明確に共産党の支持を表明している。

集会は盛況で強いインパクトを与え、後々民主運動に関わった女性の多くが記憶していた。1933年頃治安維持法違反で大阪の未決監に収監されていた大道俊、横地章子が会し、同様に児島とみらの弾圧体験者の参集も多かった。まずはこれら女性の願ひであった自由と平等の実感を喜び合い、再び決意を新たにしたことであろう。4月10日の投票率は全府下68%、女子63・9%である。

こうした政治啓発活動はほかにも多様な形で行われたであろうが、その一つとして「民主婦人大会」が横地報告に記載されていた。

〔民主婦人大会〕

1946年10月13日 春日小学校200人

参集者―主として職場関係、組合婦人部の幹部及びその周囲の数名が一団をなして参会したものが多かった。総数約二百、一時より五時まで熱心に聞いていた。……主な参集は市電、島津などのKKR系の各工場、関電、日本織物、通信関係。講演―社会党婦人部長赤松常子女史―同一労働に同一賃金の獲得について。当面の闘争に結びつけられていないため、力弱かった。共産党婦人部長大町米子女史―保償

によってとなえられている民主戦線の動きこそ、それだと思えます」と明確に共産党の支持を表明している。

集会は盛況で強いインパクトを与え、後々民主運動に関わった女性の多くが記憶していた。1933年頃治安維持法違反で大阪の未決監に収監されていた大道俊、横地章子が会し、同様に児島とみらの弾圧体験者の参集も多かった。まずはこれら女性の願ひであった自由と平等の実感を喜び合い、再び決意を新たにしたことであろう。4月10日の投票率は全府下68%、女子63・9%である。

こうした政治啓発活動はほかにも多様な形で行われたであろうが、その一つとして「民主婦人大会」が横地報告に記載されていた。

〔民主婦人大会〕

1947年度 労働学校時間割

	(理論)	(生活管理)	(文化講座と対論会)
	第一日	第二日	第三日
1月	労働運動史	生活指導(給養)	明治の文学
	労働運動史	〃(〃)	対論会(電算ストをめぐりて)
2月	労働運動史	〃(食堂管理)	明治の文学
	労働運動史	〃(食堂管理)	産業復興会議について
3月	社会学	〃(保健管理)	大正の文学
	社会学	〃(保健管理)	引揚母子寮見学
4月	社会学	〃(寮管理)	大正の文学
	社会学	〃(寮管理)	対論会(メーデーについて)
5月	社会学	〃(労務管理)	働くものの演げき
	社会学	〃(労務管理)	座談会(行動隊の体けん記)
6月	社会学	〃(男女交際・性教育)	働くものの映画
	社会学	〃(男女交際・性教育)	座談会(私たちの当面のものんだい)
7月	社会学	〃(読書指導)	働くものの音楽
	政治学	〃(〃)	座談会(婦人の社会活動に就いて)
8月	政治学	〃(家政指導)	働くものの絵画
	政治学	〃(〃)	屋外舞踊(夏のたんれん)
9月	政治学	〃(〃)	工場ニュースの作り方
	政治学	〃(〃)	屋外お茶の会
10月	経済学	〃(育児指導)	工場ニュースの作り方
	経済学	〃(〃)	屋外お茶の会
11月	経済学	〃(人形の作り方)	働くものの文化祭のあり方について
	経済学	〃(〃)	〃
12月	労働組合論	〃(保湿着の工夫、その他)	終業式
	労働組合論	〃	記念雄弁大会 茶話会
備考講師	理論の担当は昨年来よりお教へいただいた住谷悦治氏に引きつづきおねがひいたす予定であります	▲給養管理は勤労婦人連盟文化担当栄義士近藤とし子 ▲保健管理 保健婦協会理事小栗よの氏 ▲労務管理 勤労婦人連盟会長兼杉本練染教育主任渡辺つるえ	▲家政指導 勤労婦人連盟桐谷とり子 華頂高女教諭松崎八重 ▲その他絵画専門学校教授中井あい氏ほか

横地章子旧蔵の同資料より作成

毎月3日間とし、第1日目は「働く人たちがしつかり把っておかねばならぬ学問をひろく身につけてもらうこと」、第2日目は「働く人たちの工場及家庭生活のもっと合理的な、もっとかしこい、もっと楽しいくらし方の指導」、第3日目は「働く人たちの文化をつくつてくださるための方向を示すこと」を企図した。賛同

準備をし、昂奮と期待と、そして挫折の衝撃を体験した。占領以来推進してきたGHQの民主化政策の矛盾と限界を早々と示す。しかし狂乱物価による生活難を背景に労働運動は高揚していった。(京都市サラリーマン平均給与・1945年155円・46年690円・47年1839円・48年6167円『京都経済の百年』)

「労働学校」(表)

1947年 1月～12月 月3回 会費一回5円。

「連盟ニュース、1月号」によれば、住谷悦治の日本労働運動史を更に政治、経済学まで一歩進めて教えてほしい、という要望を入れて開設した。渡辺自筆と思われる趣意書にも、「みなさん予想外の熱意を示して御集まりいただき、目にみえて伸長されて私共もこれに大変元気づけられ、一つ内容的にも重みと厚さを加えた労働学校を今年に開設し、すばらしい働く婦人を育てていきたいという夢を持ちました」とある。

この他方で、「生活文化学校」のほかに講習会も併行させている。

「料理と手芸の講習」

1946年6月29日～9月21日 土曜コース 6月30日～9月22日 日曜コース 商工経済会議所 会費25円

9月15日 終了式を兼ねて米軍滞在中のグラフィス・ヤング夫人の講演会 同所

食糧難が深刻な時期であり、6月1代用食の作り方実習、7月おや

つこの作り方実習、8月子供靴・小物の作り方、9月婦人運動史・音楽も交え、実用的な内容である。これらの活動の蓄積の上に、翌年「労働学校」の開設をみた。

「1947年」

労働運動高揚のなかで2・1ゼネストが計画されたが、GHQは1月31日スト中止命令を出した。横地は「スト前夜には京都駅周辺のアジテーションに奔走していた」。勤婦にはストの中心的役割をした京都産別会議傘下の婦人労働者も多く、初となるゼネストに対しそれぞれの場で決

のうちきりとともに誡首政策の発表に対して、首切反対の大きなストの波、働く者には自らを解放する力がある。働く者の力で産業の復興、民主政府の擁立へ。協同組合勝目テル女史―協同組合の歴史、食料メーデーの際の活動、当面するストの波と協同組合の役割。

主な討論 赤松へ岡田、大道俊(社会党の失業対策を)。大町へ長谷川(青共)、近藤とし子。

会合中に、児島が電産行動隊スト突入の宣言を朗読、支持を求めた。会場で「働く婦人」「アカハタ」

を売る。

この他方で、「生活文化学校」のほかに講習会も併行させている。

「料理と手芸の講習」

1946年6月29日～9月21日 土曜コース 6月30日～9月22日 日曜コース 商工経済会議所 会費25円

9月15日 終了式を兼ねて米軍滞在中のグラフィス・ヤング夫人の講演会 同所

食糧難が深刻な時期であり、6月1代用食の作り方実習、7月おや

「労働学校」の開設をみた。

「1947年」

労働運動高揚のなかで2・1ゼネストが計画されたが、GHQは1月31日スト中止命令を出した。横地は「スト前夜には京都駅周辺のアジテーションに奔走していた」。勤婦にはストの中心的役割をした京都産別会議傘下の婦人労働者も多く、初となるゼネストに対しそれぞれの場で決

協力組織も以下にあげている。

立正電気、京都織物、三谷伸銅、鐘紡京都工場、宇治化学、大丸デパート、寿十条工場、島津伏見工場、東洋レーヨン山科工場、鐘紡山科工場、杉本練染、第一製薬工場、京都市電、府立医大、奥田電気、東洋レーヨン石山工場、島津紫野工場、日本レース工場、日本輸送機、日国工業、全通特定局、日本冶金伏見工場、奥村電気、京都郵便局、日本冶金、島津三条工場、昭和真空会社、西陣郵便局、鐘紡油脂、左京郵便局、高島屋デパート、簡易郵便局、関西配電（中京、京都支店、下京、伏見、上京）、大映撮影所、井上電機、三越デパート、島津五条工場

右に多少の組織追加と個人参加者を加えたものが勤婦の実勢範囲と推定される。

また、一連の勤婦の婦人労働者啓蒙・教育活動が可能であったのは、戦前に人民戦線事件など何らかの形で反体制的な運動に関わり、権力の抑圧を受けた進歩的学者、知識人の協力と実践があったからである。

この延長線上で、参加しにくい人たちのための夜間大学を設けた。

〔第1回婦人労働夜間大学〕

趣意書には、冒頭に「この度第一軍及総司令部労働科学局からの御支援を頂いて」開校するとある。まさにその支援―関与が蜜月時代とい

たいような編成にみえる。

9月1日～16日（月・水・金曜日）
午後6時～9時 クルীগー図書館（四条通り大丸西）会費8日間30円 517人（定員200人の予定）

9・1 職業選択の根本問題 第一

軍情報教育課長アンダーソン

9・3 討論会「新生活運動を如何にすすめるか」司会・放送局岡崎

社会党―国島勝子 自由党―矢野

みつ子 民主党―中川たき 国協

党―未定 共産党―児島とみ

9・5 労働組合と消費組合 第一

軍情報教育調査官テキスター

9・8 グループデイスカッション

「安全（服装、保健、工場、家庭）について」

9・10 労働基準法の出来るまで

厚生省婦人児童課長谷野せつ

9・12 労働者教育の根本問題 総

司令部労働科学局賃金課長スタン

ダー

9・15 パネルデイスカッション―

各組合代表 議長 近藤とし子

「今、私の組合では何が問題にな

っているか」「社交ダンスと犯罪」

など

9・16 茶話会 アメリカ映画 職

業幹旋

〔第2回婦人労働夜間大学〕（詳細不

明）

10月14日～11月7日（7日間）

517人

講師―マックファアランド 湯浅八郎 高橋信三 田中千代 山川菊栄

生活文化面では次の活動がある。

「働く婦人生活展示会―連盟一周年記念事業」

1947年1月24日～26日 市民会

館（市役所別館3階）開設に協賛

〔母親学校〕

先の「連盟ニュース、1月号」には、

「若い民主日本を建設するお母さん

をつくる事を目的とします」とある。

1947年2月15、16、17日（予定

では毎月）午前10時～3時 市民会

館 会費1ヵ月15円

（物価はキャラメル1箱20円、食パ

ン1斤28・50円、牛乳1本15円）

第1日 栄養 保健 教育 社会問

題

第2日 1日目の内容の実際面につ

いて（共同炊事、学校給食、公衆

衛生、家庭でできる玩具、性教育、

男女共学問題）

第3日 午前―新聞にのつた政治

経済、社会問題をとりあげた政治

教育

午後―座談会、討論会（産児制限、

婦人会はどんな活動をしている

か、近頃の若者の思想・娯楽につ

右について、48年に横地が勤婦の歴史をいずれかへ報告した「下書き」がある。当時横地は共産党京都府委員会婦人部長。

「勤労者の家庭婦人のなかから、苦しい今の生活を自らすすんでよい方へ変えていこうとするような人たちを一人でも多くつくりたいというのが私たちの念願でした。……私どもの試みはよろこばれたにも拘らず、大きな成功をおさめたとは申せませんでした。例えば、市民会館で開いた母親学校です。……毎日の仕事に忙しいお母さんたちを市の中央にまる一日、三日間つづけて引き出す事は不可能といつてよい事でした。大変熱心な方たちが二、三十人集まってくださっただけでした。……新しい抱負にみちて、是非つづけてほしいとのぞまれたにも拘らず、私たちは手不足でお引受けする事ができませんでした」

〔手芸品授産事業〕

経済危機が続くなかで「子どものおやつ、絵本代、組合婦人の修養費や闘争資金にでもなれば」と定期的な活動とした。布や資材を一括購入した手芸品（縫いぐるみや犬人形）の授産場である。

〔1948年〕

年初にGHQ労働課スタンダーが
労組婦人部の再組織を提唱した。男
女不平等の現状をふまえて労組の多
くで婦人部をおくようになってきた
が、それは二重権行使になり、理想
的には男女差はないほうがよく、再
検討すべき、という。実情からみて
時期尚早といわねばならないが、婦
人部（または青年部）に共産主義が
浸透しやすい状況を制御したい意図



が隠されている。

また同年、祝日制定の動きに対し
婦人の日を加える声が高まり、「婦
人の日論争」がおこる。主として産
別婦人部、婦人民主クラブなどは3
月8日国際婦人デーを、新日本婦人
同盟、総同盟婦人部などは初の参政
権行使の4月10日を推す意見に分か
れ、婦人運動分裂の火種になる。京
都でも国際婦人デー実行委員会が激
論となるが、この間を婦人月間とし、
そのかわりに国際婦人デー（後述）
を統一して開催することを決め
た。

〔第3回婦人労働夜間大学 婦
人参政権行使記念〕

4月8日～24日 生祥小学校
会費50円 470人

4・8 世界に於ける婦人参政
権獲得の歴史 住谷悦治

4・10 インフレーションと労
働問題 島恭彦

4・13 社会政策と児童福祉法
京都軍政部 パトナム

4・15、17 婦人運動第一線の
人は語る 赤松常子 奥むめお

野坂龍
4・20 アメリカの婦人と政治
坂西志保

4・22 世界に於ける人民運動
新村猛

4・24 各組合の婦人対策討論会
産別、総同盟、KKR（京都金属

労組連合会）、全官公

先にあげた横地下書きの続きに
は、

「……組織労働者としての各労
組の婦人たちによびかけた仕事は
支持をうけ、ある程度の成果を収
めていると申す事も出来ると思っ
ます。

一昨年継続してもった幹部教育
としての労働学校、昨春秋から、
この四月には第三回を終わった婦
人労働夜間大学は多くの支持を得
ています。夜間大学はいつも四、
五百人の働く婦人たちが仕事に疲
れたあとに、遠方から集まり、五
時半から二時間熱心に勉強しま
す。もしこれが二年前のこととし
たら、これだけ多くの人たちをと
ても集めることは出来なかったで
しょう。これこそは、まったく労
働階級がこのインフレの中で苦し
められ、闘争を通じて日々成長し
て来、労働者としてより高いもの
をもとめ、日々の問題の解決をも
とめているからこそと考えます。

集って来た年若い働く婦人たち
は、まだまだ組合のことに無関心
でいる友だちを、どうして一人で
もめざめさせようかと心をくだ
き、それについてよく質問し、討
論がされます。そのとき私たちは
気づいたのですが、このような学
校がもっと方々にもたれたら、よ

り多くの働く人たちを吸収し、い
ままで無関心でいた人たちをもひ
きつけることが出来るだろうとい
うことです。地労協の各ブロック
の婦人部が力をあわせて、地域的
に、自分たち自身の手で、こうい
う夜間労働学校をひらくことも出
来るのです。もうすでにそれが出
来るころまで、みな成長して来
ているのではないのでしょうか。私
どものしている仕事はやがてその
ような形に発展していかねばなら
ないという見透しを最近得る事が
出来ました。そしてまた、労働学
校はただ誰かの話をきくという勉
強であってはならないとも結論し
ました」
とある。

〔第4回労働夜間大学〕（詳細不明）

6月19日～7月3日（6日間） 会費
30円 627人

・個人と社会 重松俊明
・映画の正しい観方 松竹撮影所
・糸屋寿雄

・新しい給与体制について（討論会）
司会 沼田稲次郎

基準局二宮課長 全官公 総同盟
KKR 産別

・恋愛論 人文学園 新村猛
・働く婦人の生理と衛生 府立医大

藤原忠

・労働基準法は完全に実施されてい
るか 司会 横地章子

初の参政権行使（画報現代史）日本近代史
研究会、1954年、国際文化情報社）

基準局桐谷 日本電池 鐘紡 京
織 松下電器 専売局 日赤 府
立、京大各病院 電産

同下書きには「勤労婦人連盟の仕事を通じて、家庭婦人↓母親学校↓PTA婦人部、労働婦人↓労働学校↓地協婦人部が地域的に、青年婦人↓婦人民主クラブ↓地域班」とメモされており、横地の意図が伺える。

同年、7月マッカーサー書簡により官公労組の争議禁止を命じた政令二〇一号が公布され、労働運動に深刻な打撃を与えた。12月には経済九原則発表。超インフレの経済から極端な緊縮政策への転換、さらに行政整理・企業整備の進行は人々の生活に多大な混乱をもたらすことになる。

この年は戦後史の明らかな転換期となったといえよう。

【1949年】

一連の勤労活動について、『京都労働年鑑 昭和二十四年版』（京都市民生局労働課）には、「単なるグループの集まりから、漠然としたものではあるが、大衆的な基礎をもつようになったのは、勤労婦人を対象とした講座を、うまずたゆまず、連続してきた賜であろう。労働講座と言えれば、直ちに労働法、働くものの経済学と初期の人達には、一見、とっつきにくい感じを与える内容のみでし

められ勝ちのものであるが、『手芸講習会』『正月料理の講習会』『体操と音楽』と、言った風に講座内容に善く気が配られている。多くの勤労婦人層を引きつけているのもなるほどとうなずかれる次第である。然し一面、どの講座もが職場闘争とやや切離されたようなかんじも受ける」（同書7章5）と総括的に評価している。

しかし、この年になると『婦人のあゆみ』年表をみても勤婦独自の活動は消え、第3回国際婦人デー（後述）の盛会、新たな京都婦人協議会（後述）結成の記載のみとなる。

横地資料もここで途絶える。同年京大病院看護婦事件がおきていた。京大病院厚生女子部卒業生の不採用を巡って紛糾、市警の介入もあり争議は次第に長期化し、大学の自治問題にまで発展した。横地は京大職組執行部として、また多方面に亘る活動のためきわめて多忙であったと思われる、長谷川博との縁談が進行していた時期にもなる。近藤は東京移転。児島は22年市議選立候補以来勤婦での活動を止め、やがて横地から共産党婦人部長を引き継いだ。聞き取りでは「48年くらいで勤婦の実質的活動は終わっている」といった。桐谷東里も時期は不明だが府労政課から配転、後は「火が消えたようであった」と西垣はいう。

この年、下山、松川事件など奇怪な事件が重なり、冷戦下GHQの反

共政策への転換は狂暴なレッドパージとなって現れた。8月には京都市で定員法に名を借りた解雇通告が行われ、福森かずえを含め208人の職組員が指名された。占領軍の示唆を受け、政府、自治体、企業の協調による共産党または同調者に対する排除は、次第に各分野へ拡大していった。労組婦人部活動者への波及も勤婦の運営に影を落としたであろう。

【1950年以後】

50年、勤婦は京都婦人協議会と共同で婦人戦線統一懇談会を、さらに全京都婦人民主団体代表者会議を召集して全京都民主戦線統一会議（民統）に参加し、その一翼を担った。横地は「勤婦を立てて呼びかけると幅広く人が集まった。民主的婦人運動の路線を引いて統一に力を注ぎ、民統の基盤は用意されていた」と総括していた。（83年）

51年の『婦人のあゆみ』年表には「4・10 参政権記念の夕べ 勤婦主催 円山公園」を『京都労働運動史年表』を典故としてあげているが、児島から「勤婦として出来るはずがない。消すこと」と指摘された。朝鮮戦争下、前年12月に血の円山事件、同年9月単独（片面）講和条約への反対運動など、政治の潮流が変化した当時の体験や勤婦組織の弱体化を知っての判断であろう。（以下次号）

倉岡愛穂墓前祭・偲ぶ会に 兵庫・京都から65人

4月19日午後、京丹後市丹後町鞍内で、奥丹後地方教職員組合、丹後労働組合総連合、治安維持法賠償要求同盟奥丹後支部など15団体が加わる実行委員会主催で、第6回倉岡愛穂墓前祭、同偲ぶ会が65名の参加で開催されました。

奥丹後出身の倉岡愛穂先生は、戦前兵庫県の小学校教員の時、戦争に子どもたちを送らず、生活に結びついた教育を実践するさなか、特高警察の弾圧に遭い獄中で虐殺されました。没後77年となります。安倍内閣による戦争する国めざした暴走を、ストップさせようと倉岡さんの墓前に参加者は誓い合いました。

偲ぶ会では、倉岡さんとともに檢舉された下村鋼三さんの甥で、戦後彼らの運動を引継ぎ、地域に根ざした教育を兵庫県但馬で実践、人権と民主主義を守る但馬連絡会代表としても奮闘され、墓前祭にも参加されていた森垣修先生が1年半前に亡くなられたことを追悼し、跡を継いでいこうという発言も相次ぎました。

兵庫県からは、マイクロボスで23名が兵庫県治安維持法賠償要求同盟としてまとまって参加、同盟京都市本部も11名京都各地から参加しました。（兵庫・田中隆夫さんから）

京都の民主運動史を語る会 総会と懇親会のお知らせ

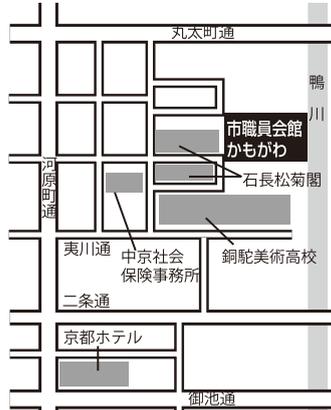
とき 7月5日 (土)

午後2時～

ところ 京都市職員会館

かもがわ

〒607-5125 京都市土手町通夷川上ル末丸町
075-256-1307



記念講演 「戦後」から「戦前」へ (仮)

もはや「戦後」ではない！ 政治史の視点で現代の状況を読む

講師 原田敬一・佛敎大学教授



1948年、岡山県生まれ。大阪府豊中市で育ち、大阪大学大学院で博士後期課程修了。日本近代史を、政治史から都市史、軍隊の社会史といった広い視野で研究されている。主な著書に『国民軍の神話 兵士になるということ』(吉川弘文館)、『兵士はどこへ行った 軍用墓地と国民国家』(有志舎)、『日本近代都市史 研究』(思文閣出版)、『帝国議会誕生』(文英堂)、『日清・日露戦争』(岩波新書) など。

会員外のみなさんもふくめ多数のご来会をお待ちしています。(会員外の方は資料代300円が必要です)

講演会・総会のあと同じ会場で懇親会(会費3000円)をおこないます。同封のハガキでお申し込みください。

会員消息

貴司山治と谷善のこと

安岡健一(長野県飯田市)「療原」お送り頂きありがとうございます。211号に「谷善と呼ばれた人」の案内を読みお手紙しました。先月、私は博士論文をもとにした本『他者』たちの農業史』を京大芸術出版会から刊行しました。その第2章で谷口と一緒に京都・丹波に入植した貴司山治のことを書いています。開拓時代の貴司と谷口の写真などもありますので、手にとって頂ければと思います。

リハビリを始めました

川合葉子(北区)

闘病生活に入り2年が過ぎました。ようやくリハビリを始めました。回復しました。又世話人会や語る会に参加できればと思っています。

残留日本人孤児を忘れない

藤原ひろ子(北区)

私たちは、日本国家の棄民政策に騙

独立プロ作品で戦後を振り返る映画センターが「暴力の町」上映

京都映画センターは戦後活発に制作された独立プロの作品を順次小会場で上映していく。第1回は1950年、東宝争議の解決とともに制作された「暴力の町」。18日(日)午前10時30分と午後1時30分からの2回、河二ホ(二条河原町西入る南側)で上映。協力券1000円、各回40人。電話256・1707に申し込み。

されて、大陸の荒野に捨てられた残留「日本人孤児」たちを忘れるわけにはまいりません。そこで白井修さん(千葉)に作詞を、廣岡明郎さん(城陽市)に作曲をお願いし「野辺の花」の歌が出来上がり、4月13日に発表会を藤原ひろ子宅で開きました。

私は特定疾患をかかえ、身障者1級歩行困難で病院以外どこへも出向けませんので自宅になりました。すばらしい歌えが野を越え、山を越え、海を渡って広がってくれることを願っています。

催し案内

京都社会労働問題研究所定期総会 5月23日(金)午後6時よりアークホテル(四条大宮西)で。総会後「宮田栄次郎氏を偲ぶ会」を開く。会費4千円。国領五一郎を偲ぶ京都国領会結成十周年記念のついで。6月21日(土)午後6時、ルビノ堀川。短時間の総会と交流。会費4千円。申し込みはFAX 441-8802 京都国領会へ。

編集後記



▼どういう紙面にすべきか、こんな企画でいいのか、悩みつづ毎号編集しています。高齢の会員がほとんどなので文字をもっと大きくすべきではないか、とも思います。関心のあるテーマもそれぞれ異なるでしょうからいろいろ難しいのですが、多彩な話題を載せることに留意しています。▼7月5日の総会では「療原」についてご意見や提言をいただきたいと願っています。そして何よりも会員のみなさんからの寄稿をお待ちしています。(湯浅)